

【 補助事業（補助率：国庫補助率1/3、都道府県・市町村各1/3 ※市町村直接実施の場合2/3負担）、実施主体：都道府県及び市町村、平成17年度事業開始 】

背景・課題

学校や通学路の安全確保にリーダー等の増員による見守り体制の強化が必要とされている。

**市町村が国へ直接申請可
市町村直接実施は2/3負担**

事故・事件の発生も踏まえ、**スクールガード・ボランティアの養成・資質向上の促進、警察や保護者、PTA等との連携**の強化が必要とされている。

事業内容

スクールガード・リーダーの育成支援

- スクールガード・リーダーの資質を備えた人材（警察官OB・教職員OB・防犯協会役員等）に対する**育成講習会の実施**
- 各種講習会等への参加支援**（他の自治体で開催する育成講習会への参加支援も含む）

スクールガード・リーダーに対する活動支援

- スクールガード・リーダーによる助言、見守り活動に対する**謝金**、各学校を定期的に巡回するための**旅費等の補助**
- 学校等の巡回活動等を円滑にするためにスクールガード・リーダーの**連絡会等の開催**を支援、**装備品の充実**

スクールガード・リーダー育成講習会やスクールガード養成講習会の開催に係る経費を補助し、**見守りの人材確保と質の向上**



スクールガード・リーダーがスクールガードに対して、**見守り活動・警備上のポイントや不審者対応等について指導・助言**

スクールガード（ボランティア）の養成・資質向上

- 通学路で子供たちを見守るスクールガードの防犯等に関する知識や非常時の対応策等を身に付けさせるための**養成講習会の実施**
- 活動の参考となる資料の作成や配布**することによる見守りの質の向上

スクールガード増員による見守りの強化及び活動に対する支援

- スクールガード等を募集するための**広報紙やポスター、看板等の作成費用の補助**
- 「登下校防犯プラン」等に基づく、登下校時のパトロールや地域の連携の場構築など**防犯活動への支援**
- 子供の見守り活動に係る**帽子や腕章などの消耗品費、ボランティア保険料の補助**

地域ぐるみで子供の安全を守る体制構築

<h1>スクールガード・リーダー</h1> <h2>(地域学校安全指導員)</h2>	<h1>スクールガード</h1> <h2>(学校安全ボランティア)</h2>
<p>警察官OB、教職員OB、見守り活動の経験が豊富な方など</p>	<p>保護者、PTA会員、自治会員、敬老会員など</p>
<p><u>適宜、スクールガード等の活動に同行し、具体的な場面に応じてスクールガード等を指導</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全体制等の安全点検の指導と評価 ・通学路等で子ども達を見守るスクールガード(学校安全ボランティア)に対する指導と助言 ・通学安全マップの作成指導 ・スクールガード養成講習会における指導・助言 ・学校安全推進委員会等への参画 	<p><u>日常的に学校安全に関し、具体的な取組を実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童等の登下校時の見守り活動 ・学校内外の施設・設備等の見回り ・通学安全マップの作成協力 <p>スクールガード養成講習会への参加</p>
<p>学校安全体制の指導・助言・スクールガードに対する指導</p>	<p>主に、児童生徒等の登下校時に、スクールガード自身が参加できる時に参加できる時間だけ見守り活動を実施</p>
<div style="background-color: #ADD8E6; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <h3 style="color: red; margin: 0;">謝金、旅費の有無</h3> </div> 	
<h2>有</h2>	<h2>無</h2>

補助対象

スクールガード・リーダーによる学校や通学路の巡回指導

スクールガード・リーダーの委嘱にあたって必要な経費及び学校巡回活動等を円滑にするための連絡協議会開催に係る経費

(例) 講師謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借損料等



SGL育成、SG養成講習会

スクールガード・リーダー育成講習会やスクールガード養成講習会の開催に係る経費

(例) 講師謝金、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借損料等



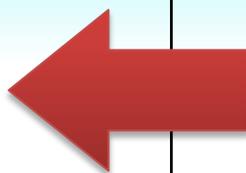
スクールガード増員による見守りの強化及び活動支援

スクールガード等を募集するための広報紙等の作成に必要な経費や見守り活動に直接必要な経費及び家庭や地域の関係機関・団体と連携の場の構築に必要な経費

(例) 消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借損料等



スクールガード・リーダー (地域学校安全指導員)



スクールガード (学校安全ボランティア)

警察官OB、教職員OB、見守り活動の経験が豊富な方など

保護者、PTA会員、自治会員、敬老会員など

面

**防犯の専門的な知識があると認められれば
元消防士、元自衛官、元刑務官、PTA関係者、自治体職員、NPO法人の関係者、
元自治会長、自営業者、会社員も可**

日常的に学校安全に関し、具体的な取組を実施

- ・児童等の登下校時の見守り活動
- ・学校内外の施設・設備等の見回り
- ・通学安全マップの作成協力

スクールガード養成講習会への参加

- ・通学安全マップの作成指導
- ・スクールガード養成講習会における指導・助言
- ・学校安全推進委員会等への参画

学校安全体制の指導・助言・スクールガードに対する指導

主に、児童生徒等の登下校時に、スクールガード自身が参加できる時に参加できる時間だけ見守り活動を実施

謝金、旅費の有無



有

無

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の活動事例

徳島県 【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

徳島県では、総数約14,000人の学校安全ボランティア（スクールガード）を全ての小学校区に配置し、登下校時における見守り活動を実施している。スクールガード・リーダーは、見守り活動への助言・指導を行ったり、スクールガードの養成講習会を開いたりするなど、通学路の安全体制確立のために重要な役割を果たしている。

【好事例：藍住町】

児童下校時の不審者被害を防止するため、スクールガード・リーダー4名と見守り巡視員9名が、原動機付自転車で通学路のパトロールを実施している。活動日は毎週月曜日から金曜日で、1回のパトロールにつき4人で活動している。巡視活動は広く児童・学校・地域に認知されており、パトロールと声かけで、児童の安全な下校に貢献した。



鳥取県 【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

- 登下校時の見守り活動（伯耆町）
児童生徒の登下校時に見守り活動を行うとともに、学校を定期的に巡回し、児童生徒に安全指導を行っている。
- 不審者侵入に備えた防犯訓練活動（大山町）
学校等が実施する児童生徒、教職員を対象とした不審者侵入防犯訓練に参加し、児童生徒、教職員に指導助言を行っている。

【成果】

- 見守り活動について
活動を積み重ねることで、防犯面でも抑止力が働き、児童生徒が安全に過ごすことができている。
- 防犯訓練活動について
専門家としての知識と経験を生かした的確な指導と自らが不審者役となり防犯用具を使用した制圧訓練を行うことで、職員が有事の際に躊躇無く行動できるようになっている。



スクールガード・リーダーによる見守り活動

山梨県 【身延町スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

通年の活動 ①通学路の巡回②安全点検③通学班への同行見守り④重点場所への定点見守り⑤通学路の環境浄化安全面のほかに、環境面に配慮し、通学路を良好な状態へ整備⑥関係者との情報共有・指導

様々な活動 ①交通安全教室で講師として、交通ルールや交通安全についての体験学習②防犯教室に出席（不審者からの声掛け、連れ去り対応訓練）③地域ボランティアグループとの連携（総会・対面式に出席し、報告や意見交換）

ボランティアグループ「下山小学校子ども見守り隊」

【目的】下山小学校地域の児童生徒の安全確保を図り、健全育成に資する

【活動内容】

- ・登下校時、通学路等で児童生徒を見守り、ふれあい、声掛けをする
- ・通学路等の安全点検に努め、危険箇所をなくすために提言する（平成28年度文部科学大臣表彰「学校安全ボランティア活動奨励賞」受賞）



神奈川県川崎市 【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

- ・定期的な巡回指導
- ・学校内の防犯対策に関わる指導・助言
- ・スクールガードの指導育成
- ・連絡協議会への参加

【成果・好事例】

本市のスクールガード・リーダーは20名配置しており、すべて警察官0日によって構成されているため練度も高く、交通危険箇所の交通整理、学区を巡回しての不審者等への対策、安全体制の構築のための学校への指導・助言等の様々なことを行えるため学校からも感謝の声が上がっている。



地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の活動事例

鹿児島県【スクールガード・リーダーの取組】

【活動内容】

- 登下校時間の児童生徒の見守り活動。
- 各学校のスクールガードへのアドバイス。
- 危険箇所や児童生徒の様子について学校への助言。
- 交通安全や生活安全に係る「地域連携の場」の会議への出席。
- 各学校で行われる防犯教室への参加・協力。
- 学級活動や保健の授業へのアドバイザーとしての参画

児童とスクールガード・リーダーの対面式の様子

【成果・好事例】

- 子どもたちの見守り活動はもとより、自分たちの地域は自分たちで守るという気風を作る核となっている。
- 子どもたちが笑顔で安心して登校できる環境づくりに大いに貢献している。
- 学校の防犯教室への参加や情報提供などを通して、地域と学校をつなぐ大切な役割を担っている。

朝の見守り活動の様子

広島市【地域学校安全指導員（SGL）の取組】

【活動内容】

- ① 学校安全体制、学校施設の現状把握
- ② 学校安全上の問題点の分析と対応策の指導
- ③ 教職員との協議・研修
- ④ 学校安全ガードボランティア(スクールガード)の研修
- ⑤ 地域の見守り活動者への支援 ほか

【成果・好事例】

不審者が頻繁に目撃されたり、児童生徒等の安全を脅かすような事件が発生した場合は予定を変更し、その地域にスクールガード・リーダーを緊急派遣し、見守りの強化などの対応を図り、事件の未然防止や、児童生徒等・保護者の不安解消に努めている。「不審者対応の手引き」を作成した。



中学校教員に対する不審者対応訓練の様子（市内全ての中学校から1名参加）

札幌市【スクールガード・リーダーの取組】

中の島小学校【主な取組】

- ・ 定期的な訪問や、世の中を震撼させる事件の後に訪問をし、啓発活動を行う。（来校時は青色灯を回して駐車）
- ・ 日常から児童に声をかけ、顔と名前を覚えてもらい、事件・事故から身を守る手立てを児童に伝えている。
- ・ 全校朝会で全校児童に紹介し、話をしていただき、活発に活動しやすくする。

【成果】

- ・ 児童、保護者、地域住民に知っていただき、安心して登下校し、過ごすことができている。
- ・ 青色灯で駐車し、声かけを行うことが事件、事故の抑止力につながっている。



上白石小学校【主な取組】

- ・ 月末の児童の下校時刻合わせた通学路の見回りに加え、他県で起きた重大事件の後や、荒天が予想される前なども臨機応変に見守りに取り組んでいる。
- ・ 全校朝会やPTA行事などにも参加することで、児童や保護者から認知されるように努力している。
- ・ 通行量の多い道路での見守りや声掛けにも力をいれて活動を行っている。

【成果】

- ・ 通行量の多い道路から「抜け道」としてスクールゾーンに侵入してくる車両に対して、注意力が増してきている。
- ・ 児童に「自分の安全を守ってくれる人」という意識がはぐくまれてきており、通学時の安心感が高まっている。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

千葉県千葉市

「スクールガード・アドバイザーと学校セーフティウォッチャーの活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	982,429人	271.8km ²	3,615人/km ²	113校

令和3年3月時点



活動の概要

- 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」として委嘱事業であった平成14年度～補助事業に変わった現在に至るまで長期間事業を継続している。
- 登下校の見守り活動を実施する「学校セーフティウォッチャー」と、学校への巡回・評価、学校セーフティウォッチャーに対する指導・助言を行う「スクールガード・アドバイザー」が活動している。
- 活動者、市、学校、学校支援地域本部（地域学校協働本部）等が積極的に連携を取りながら取組を進めている。

基本情報

事業開始時期	平成14年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業を開始
事業内容	「学校セーフティウォッチャー」の養成・研修、「スクールガードアドバイザー」による学校への巡回・評価・学校セーフティウォッチャーへの指導・助言
活動者数と 主な経歴	スクールガード・アドバイザー：13名 （元警察官1名、元校長12名） 学校セーフティウォッチャー：25,149名 （保護者、PTA、地域住民、学校支援地域本部等）
活動学校	市内全小学校・中学校・特別支援学校・市立高校
行政からの支援	スクールガード・アドバイザー：帽子、腕章、ネームタグ 学校セーフティウォッチャー：腕章 ※横断旗、ビブス等の装備品は各学校から提供

活動の内容

- 「青少年育成委員会」が設定されている中学校区を1つの区域とし、登下校の見守り及びスクールガード・アドバイザーによる巡回を実施している。
- 見守りの対象は主に小学生だが、中学校区をカバーすることで小学校の通学路もカバーしている。特別支援学校、市立高校も巡回の対象としている。
- 学校セーフティウォッチャーは主に活動する小中学校へ登録し活動する。スクールガード・アドバイザーは各育成委員会4から6区域を担当する。
- 「スクールガード・アドバイザー連絡協議会」を年1回開催し、情報交換及び学校セーフティウォッチャー活動の充実を目指し、講師の指導を受ける。
- 青少年育成委員会や学校支援地域本部との連携、情報共有を密に実施している。学校セーフティウォッチャーの登録者は、学校支援地域本部における見守り活動実施者と重なる部分が多い。

活動の工夫

- ◎ 学校セーフティウォッチャーへの「感謝」が活動の継続性に繋がる
- 学校セーフティウォッチャーが“いて当たり前”の空気が課題の一つである。
- そのため、教員への意識啓発とともに、学校セーフティウォッチャーを学校に招待して児童の発表会を見学したり、セーフティウォッチャーにお礼の手紙を読む会、給食を一緒に食べる会など、各学校が独自に取り組んでいる。
- 日頃からの学校との関係づくりだけでなく、学校セーフティウォッチャーのモチベーションアップ、活動の継続にも繋がっている。
- ◎ 様々な主体とのコミュニケーションにより、地域全体での見守りを実現
- 巡回時には、学校教員とのコミュニケーションを積極的に実施するなど、市・地域学校協働本部等とのコミュニケーションを重視、スクールガード・アドバイザー、学校セーフティウォッチャーだけで見守るのではなく、地域全体で子供たちの安全を見守る体制を構築している。

気持ちよく見守り活動ができるような環境づくりが大切

スクールガード・アドバイザー 花沢俊一さん

セーフティウォッチャーが活動中様々な人と挨拶を交わすことは、子供たちの見守りだけでなく、良好な地域づくりに寄与していると考えています。学校セーフティウォッチャーが気持ちよく活動できる環境づくりのため、巡回時のコミュニケーションを大切にし、市や学校とのよき仲介役となるよう努めています。セーフティウォッチャーからの「ありがとう」の言葉はとても嬉しいですね。

いつの日か今の子供たちがセーフティウォッチャーやスクールガード・アドバイザーとして活躍してくれる日が来るといいな、と夢膨らませながら活動しています。



～プロフィール～

- 中学理科教員、千葉市補導センター、小学校校長を歴任。
- 退職後、現役時代にお世話になった地元への恩返しをしたいと、平成29年度から活動開始
- 市内5つの中学校区、8つの小学校を担当。担当区が広いと、独自にグループをつくり、日替わりで巡回している。本人曰く「活動は健康の為でもある」とのこと。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

福岡県福岡市

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
政令市	153.9万人	343.4km ²	4,482人/km ²	144校

令和3年3月時点



「マンパワーとIoTを組み合わせ、新しい見守り活動へチャレンジ」

活動の概要

- 教育委員会指導部生徒指導課が所管課として、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」での各校巡回、NPO法人による防犯教室などを推進しているほか、市民局の生活安全部では「IoTを活用した子ども見守り事業」を実施するなど、教育委員会と首長部局とが連携して通学路の安全確保に取り組んでいる。
- 精力的なスクールガード・リーダーと大勢のスクールガードによって、市内公立学校全校（小・中学校、特別支援学校）を対象に地域ぐるみ事業の活動を行っている。
- スクールガード・リーダー、スクールガードの高齢化・担い手不足や、マンパワーで対応できることの限界を、IoT等の技術でカバーしようという理念を持っている。

基本情報

開始の経緯	市内外での交通事故・事件の発生や文部科学省からの要請等もあり、2007年度より開始
取組内容	スクールガード・リーダー：学校内外の危険個所の確認・集約、子供が楽しく学べる防犯教室の開催 スクールガード：通学路の見守り活動をはじめ、学校の状況に応じ様々に活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：警察官OB（2名）、警備会社関係者（1名）、防犯関連NPO法人関係者（1名） スクールガード：地域住民や保護者など29,200名（※R1実績）
活動学校	市内公立学校全校（小学校144、中学校69、特別支援学校8）
行政からの支援	スクールガード・リーダーには、謝金、保険加入等の支援

活動の内容

- スクールガード・リーダーは各学校を年間1回訪問し、学校の内外を観察し、防犯の専門的な見地から指導・助言を行っている。各校についてチェックシートを作成し、校長の所見を書き加えたうえで教育委員会に提出している。
- スクールガード・リーダーは、スクールガードに対して行う養成講習会において、子供たちの防犯についての講師をしている。
- 年間3回の「スクールガードリーダー連絡会」を開催しており、スクールガード・リーダーが各学校を巡回する中で得た情報や意見を集約・共有している。
- スクールガード・リーダーには、防犯のNPO法人関係者もあり、年間数校で防犯教室の講師をしている。子供たちが体を動かしながら、楽しく学ぶことのできる教室を提供している。
- スクールガードは、通学路の見守り活動を中心に、各学校の特性に合わせて様々に活動している。無償のボランティアであるため、過負担にならない範囲での活動を行う。

活動の工夫

◎ 市民局の「IoTを活用した子ども見守り事業」とも連携

- 市民局の防犯・交通安全課では協働実施事業者である九州電力送配電株式会社と協力し、2019年より、小学生に見守り端末を配布して位置情報を記録し、登下校等の安全確保に役立てるサービスを開始している。
- 教育委員会も連携して事業推進し、既に市内全域でサービスを開始している。
- 見守り活動員の高齢化、人材不足、時間的な制約といった課題を、IoTを活用することで補完していこうという目的がある。

◎ スクールガードの心理的なハードルを下げる

- スクールガードを大げさに考えず、日々の生活の中で自ずと犯罪抑止につながるような小さな積み重ねを行ってもらうことを重視している。
- 「地域住民や保護者等、子どもたちの安全に関わっている全ての方々がスクールガードである」との認識を多くの人にもっていただくことができるよう、各学校を通じて、保護者や地域の方々に啓発している。

「スクールガード」のハードルをもっと低く

福岡市教育委員会 指導部 生徒指導課 主査

スクールガードへのハードルが、もっと下がるとよいと感じています。保護者や地域の方々が、生活の中で少しだけ防犯や交通安全を意識するだけでも、地域の抑止力は高まります。スクールガードを特定の人が担う役職だと認識するのではなく、「子どもたちの安全に関わっていただいている全ての方々がスクールガードである」という認識が少しでも広がっていくとよいですね。

福岡市市民局 生活安全部 防犯・交通安全課 企画調整係長

現在、非常に協力的な活動者の皆様のおかげで、子供の安全が確保されています。ただ、今後はマンパワーに頼り切るのではなく、IoT等の技術を活用するなど、複数の手段を組み合わせ、効率的な見守り活動の姿を模索していきたいと考えています。



SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

埼玉県加須市

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
市	112,792人	133.5km ²	845人/km ²	22校

令和3年3月時点



「スクールガード・リーダーと学校応援団による見守り活動」

活動の概要

- 埼玉県において、学校における安全・安心や学習活動等をボランティアとして支援する「学校応援団」が開始されたことを契機に、スクールガード・リーダーによる活動を開始した。
- スクールガード・リーダーは、県の要請もあり、市内全小学校に各1名ずつ配置されている。
- スクールガード・リーダーの経歴には、元学校長、元警察官等の基準はなく、PTA役員や見守り活動経験者等、様々な住民が担っている。
- 市内小・中学校には「学校応援団」として登下校時の見守り活動を実施するボランティアが登録されている。

基本情報

事業開始時期	平成17年度 埼玉県「学校応援団」の開始を契機に、スクールガード・リーダーを導入
事業内容	通学路における見守り活動 挨拶強化月間における教員、学校応援団と連携した見守り活動 担当校教員との情報交換
活動者数と 主な経歴	スクールガード・リーダー:22名 市内22校に各1名ずつ配置 経歴は学校応援団経験者、PTA役員等様々 学校応援団による見守り活動登録者: 小学校1,021名, 中学校183名
活動学校	市内全小学校 ※ただし、学校応援団は中学校にも登録
行政からの支援	スクールガード・リーダー:ベスト(県より支給)、帽子、腕章、 ライト付きボールペン、メモ ※ただし、市では装備品の支給に係り地域ぐるみの学校安全整備推進事業補助金を活用していない

活動の内容

- 市内22のすべての小学校に1名ずつスクールガード・リーダーが配置されており、登下校時の見守り活動や学校との情報交換を実施している。
- 活動方法や活動内容に特段の決まりごとはなく、スクールガード・リーダーが学校と相談するなどして決定している。
- 毎年5月、10月の「挨拶強化月間」に合わせて、スクールガード・リーダー、教員、学校応援団が連携した見守り活動を実施している。
- 学校毎に、見守り活動に係る研修会を実施している。

活動の工夫

- ◎ 感謝の会や学校行事への招待によりモチベーションアップを図る
- 各学校において、自主的にスクールガード・リーダーや学校応援団への感謝の会を実施しているほか、スクールガード・リーダーを運動会や学芸会、卒業式等に招待する学校もある。
- こうした取組は、活動者のモチベーションアップに繋がるだけでなく、子供たちがスクールガード・リーダーを認識するきっかけともなる。
- ◎ 市報にスクールガード・リーダーを紹介し、活動のしやすさを向上させる
- 過去、スクールガード・リーダーの活動が地域住民に十分に浸透していないという指摘があった。地域住民の活動への理解は、スクールガード・リーダーの活動のしやすさに直結する可能性が高い。
- そこで、各校を担当するスクールガード・リーダーを市報にて紹介し、スクールガード・リーダーの認知度と活動のしやすさの向上を目指した。

子供達の自主性も見守ることが大切

スクールガード・リーダー 加藤久佳 様

市では、集団登校を実施しており、高学年の班長がいます。班は長、周りを見て低学年の子供たちに危なくないよう声かけをしていますが、せっかく子供達同士が危ない行為や危ない箇所を伝え合っているのに、大人が言いすぎるのはよくないと思っています。もちろん、本ろくに危険な場合には声をかけますが、基本的には「見守ることに」徹しています。

学校から卒業式に招待いただき、長年見守っていた子供たちが成長した姿をみると、感慨深いものがあります。



～プロフィール～

- 平成23年度にスクールガード・リーダーが3校1名体制から1名1校体制に変わったことを契機に、スクールガード・リーダーとしての活動を開始。活動開始当時はPTA副会長。
- 通勤前に自動車ですぐ学校へ向かい、1.5時間程度見守り活動を実施の後に出勤。
- 担当校区4～5kmの範囲を自転車や徒歩で巡回。趣味の街歩きトレーニングにも寄与しているとのこと。

SGL SGの活動	行政との 連携	住民同士 の連携
見守り ノウハウ	活動の 活性化	若者の 参画

埼玉県嵐山町

「住民主体による、地域一体での見守り活動」

行政区分	人口	面積	人口密度	町立小学校数
町	17,747人	29.9km ²	594人/km ²	3校

令和3年3月時点



活動の概要

- ・ スクールガード・リーダーだけでなく、町内行政区（町内会）、PTA、ボランティア団体、交通指導員、行政職員等による見守り活動が行われている。
- ・ 日ごろからのコミュニケーションにより見守り活動者同士の横の連携も自然と構築された。
- ・ 登校時は児童への付き添いを実施しているが、行政区をまたぐ際に、次の行政区の見守り活動者へバトンタッチするなど、役割分担を明確にし、登下校時の空白地帯の減少や、活動負担の軽減を実現している。

基本情報

開始の経緯	地域ぐるみ事業を平成24年度から開始
取組内容	各区の取組は区ごとに様々であり、通学路の安全点検、見守り活動、登校時の付き添い、立哨指導、見守り講習会の開催等を実施
活動者数と 主な経歴	スクールガード・リーダー：3名（うち、元警察官1名）
活動学校	町内全小学校（3校）
行政からの支援	スクールガード・リーダー：県からピブスを提供 地域ボランティア団体：帽子、ベスト等を提供（地域ぐるみ事業外で支援）

活動の内容

- ・ 活動内容は各区、各活動によって様々であるが、主な活動は、登校時の児童付き添い、下校時の見守り活動、交差点等での立哨指導である。
- ・ 登校時の児童の付き添いにあたって、通学路が複数区をまたぐ場合には、付き添いの引継ぎをしている。
- ・ 見守り講習会には、各区住民やPTA、教職員等が参加し、スクールガード・リーダーが講習会の企画及び講師を担っている。
- ・ 各区では、月1回（概ね17時から19時頃に）ナイトパトロールを実施しており、毎回ほぼ全員が参加する区もあるなど、防犯だけでなく、区内住民のコミュニケーション手段としても効果的である。
- ・ 見守り活動の役割分担や方法など、町として指導・提案等は特段実施しておらず、見守り活動者の横のつながりによって、地域ぐるみの見守り活動が実施されている。
- ・ 町では、町役場職員による青色防犯パトロール車での巡回や、交通指導員の確保、パトロールセンターを中心とした防犯活動を実施している。

活動の工夫

- ◎ 広域な通学路は見守りの引継ぎによって安全を確保する
- ・ 通学路が広域であるため、付き添い登校や見守り活動への負担が大きいことが課題の一つである。
- ・ そこで、各区それぞれが区内の見守り活動を実施し、区をまたぐ場合には引継ぎを実施することで、活動者の負担軽減だけでなく、登下校の空白地帯の減少につながっている。
- ・ また、各校PTAや交通指導員等が活動を補完し、地域全体での安全な通学路と見守り体制が構築されている。
- ◎ 子供たちの一礼が、横断歩道前で停止する自動車の増加に繋がる
- ・ 町内は交通量が多いうえ、信号機のない横断歩道も多くあるため、一時停止しない自動車も少なくない。
- ・ しかし、横断歩道前で停止した自動車に対して、児童生徒が横断後に一礼することが定着し、横断歩道前で停止する自動車が増加した。

子供たちの笑顔と挨拶が何よりも嬉しい

嵐山町で見守り活動に取り組むみなさん

嵐山町では、各区がそれぞれに見守り活動を実施しており、どの区も活発に活動しています。なかでも、付き添い登校の引継ぎは、各区が責任を持ち、一生懸命に活動しているからこそ実現できていることだと思います。

一方で、高齢化や定年延長などの影響により、担い手不足や、活動者の固定化など、全国的にみられる課題も表出し始めていますが、町内の子供たちは町内で守る意識のもと、日々安全な通学路の確保に向け取り組んでいます。

活動をしていて、子供たちとコミュニケーションを取り、笑顔挨拶してくれること何よりも嬉しいですね。当初は義務感で活動していた方が、活動を重ね、今では下校時間が来ると自然と体が動いてしまう、なんて人もいます。



写真左から：スクールガード・リーダー 花田 博さん、見守りボランティア「いちえ会」関口和夫さん、橋本 一郎さん、区長会副会長 茂木伸一さん、区長会会長 権田 一さん、川島区長 江森 不二男さん

SGL SGの活動	行政との連携	住民同士の連携
見守りノウハウ	活動の活性化	若者の参画

山梨県道志村

「村全体で子供の安全を見守る体制の構築を目指した取組」

行政区分	人口	面積	人口密度	市立小学校数
村	1,633人	4.99km ²	327/km ²	1校

令和3年3月時点



活動の概要

- ・ スクールバスで通学している児童に対して、スクールガード・リーダーが車での見守り活動等を実施。
- ・ P T Aの代表や学校長、駐在所、教育委員、教育委員会事務局を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織して見守り活動を実施。
- ・ さらに、保護者をはじめとして地域全体で見守りを行う体制を構築していくための出発点として、「活動している様子」を見せて行くような周知・PR活動を進め、住民の意識啓発に取り組んでいる。

基本情報

開始の経緯	村内の主要道路の交通量が比較的多く、交通事故が多く発生していることや他県等における子供が狙われた事件等の発生をきっかけとして開始
取組内容	スクールガード・リーダーによる車両追尾による見守り活動、防犯教室の開催 関係組織と連携した「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」による見守り活動
活動者数と主な経歴	スクールガード・リーダー：1名（教育委員OB）
活動学校	村内の小中学校（小中一体型）
行政からの支援	スクールガード・リーダーに対する帽子、腕章を提供

活動の内容

- ・ 村内の小・中学生はスクールバスで通学していることから、SGLによる見守りは、スクールバスの後ろを自動車で追尾する形で実施している。
- ・ スクールガード・リーダー一人ではできることに限界があることから、地域全体での見守りの機運を高めるため、PTAの代表や学校長、教職員、駐在所、教育委員、教育委員会を巻き込んだ「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」を組織し、学期に2回、スクールバスの停留所などでの見守り活動を行っている。
- ・ また、同隊の結成にあわせて様々な団体への見守り活動の協力を呼びかけており、建設業協会からはベスト30着の寄贈をうけるとともに、車両に見守り活動中のステッカーを掲示した、ながら見守り活動にも参加いただいている。
- ・ 日常的にPTAから挙げられた危険箇所について教育委員会で取りまとめており、10月に実施している合同安全点検では、スクールガード・リーダーや警察・道路管理者とともに点検を行っている。

活動の工夫

- ◎ **見守り活動を地域に周知して地域の意識向上を図る**
 - ・ スクールガード・リーダーが保護者や児童・生徒に知られることが重要となるため、始業式や運動会、文化祭などの様々な行事においてスクールガード・リーダーが出席するようにしている。
- ◎ **学校・教育委員会など地域との積極的な連携の場の構築**
 - ・ スクールガード・リーダーはもともと教育委員であったこともあって教育委員会や学校現場とのネットワークができており、普段から密な連携を行っている。
 - ・ 「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」でも、関係者が集まって相互に意見交換や情報共有を行うなど、地域の関係者と積極的に連携する場を構築し、地域全体で防犯意識を底上げして、地域全体で見守る取組を進めている。

地域全体で見守る意識の情勢に向けて、活動を見せることから始める

道志村スクールガード・リーダー 池谷幸昌さん

一人でできることには限界がありますが、スクールガード・リーダーやスクールガードを増やしても、地域全体をくまなく網羅的に見守ることはやはり難しく、地域全体で協力をしていくことは必要不可欠です。
県が実施している研修会などに参加して他のスクールガード・リーダーの方の話聞く中で、地域全体で見守るような体制を作っていくことが重要だと考え、様々な団体に声をかけて協力を要請し、結果として「道志村児童生徒の登下校時見守り活動隊」などもできました。

「地域全体で協力していく」というゴールに向けて、保護者をはじめとした地域の皆さんの協力を得られるようになるためには、まず、見える形で「活動している様子」を見せて行くことが大事だと考えており、村と協力しながら、周知・PR活動から取組を進めています。

